

# 写本・退蔵螺蛤老人般若心経止啼銭

青 龍 宗 二

ここに紹介する『退蔵螺蛤老人般若心経止啼銭』（以下・心経銭と略称）は、筆者が所蔵するところの写本である。本書の形態は和綴の帳数一帳、寸法縦二七・五糎、横二〇糎、紙数二十五葉である。書写の年次や氏名等の奥書は付されていないが、この写本『心経止啼銭』にはその巻末に退蔵峯侍者の跋語が載せられてあり、更に刊行者自身の奥書等もある点から、跋文等のない『曹洞宗全書』所収本と比較して極めて貴重な写本であることが分る。この書写本が刊行者・五十川正敬の草稿本に基づくか、あるいは寛延四年（一七五二）八月刊行の初刊本に基づくのか、定かでないが、現在、初刊本について唯一の版本が駒沢大学図書館の忽滑谷文庫に所蔵されている。昭和十五年（一九四〇）十月、この初刊本は忽滑谷学長功績記念会より本学図書館へ寄贈されたものであるが、明治時代すでに初刊本は余り巷間に流布されていなかった模様である。

明治九年（一八七六）三月、東京・豪徳寺住職大溪雪巖和尚の発願によって、この『心経止啼銭』が再刻刊行されている。昭和十一年（一九三六）曹洞宗全書初版発行当時、何故か注解四所収の『心経止啼銭』は、この明治九年発行の再刻本を収録していることである。この再刻本は、筆者所蔵の写本や初刊本など比較すれば、歴然たる如く本文を一部添加し、また退蔵峯侍者の跋文や五十川正敬自らの奥書を欠いている点など、必ずしも最善本と言えないものである。昭和四十七年（一九七二）九月発行の『曹洞宗全書』覆刻本も、初刊本が忽滑谷文庫に所蔵されながら、跋語や奥書について全く注意を払われることなく、再刻本の覆刻に終っているのは遺憾なことと言わねばならぬ。

『心経止啼銭』は詳しくは『退蔵螺蛤老人般若心経止啼銭』と呼称され、その標題から江戸時代の宗学者天桂伝尊（一六四八～一七三五）の般若心経提唱記録であることが知

られているが、筆者所蔵本等の跋語から『心経止啼銭』成立の経緯が一層鮮明となり、更に天桂和尚の法嗣・直指玄瑞等の撰に成る『退蔵始祖天桂和尚年譜』（曹洞宗全書史伝下）と考え合せれば、その成立過程もほぼ明らかとなろう。

今は紙幅の関係上から、その大概について二、三を指摘しておくに止めるが、『心経止啼銭』は、宝永四年（一七〇七）天桂和尚六十歳の年、都の萩原三位公が師を招いて法要を咨問した時に、天桂和尚は『般若心経』を提唱（年譜）され、それを「随徒私録ニ師講解。名曰ニ止啼銭。近刊ニ行于世。」（同割注）と伝える如く、侍者が私かに記録した提唱記録が元になって成立しているわけであるが、特に天桂和尚の篤信の門人であり、和尚示寂の年（一七三五）には陽松菴に輪蔵一字ニ空果堂ニを寄進された浪華の住人五十川一路居士が、ある時、侍者に天桂和尚の垂誨の言葉を請うたところ、侍者より『般若心経』私鈔を渡されて、これを生涯看読して心の糧としていたが、臨終の折、わが子に遺言して、自分の追薦供養に上梓するよう命じたために、その子五十川正敬は、天桂和尚の直弟子・直指玄瑞を退蔵峯を訪ねて、亡父の遺志を伝えて『心経止啼銭』刊行の運びとなったものである。その刊行の寛延四年は恰も天桂和尚十七回忌に当り、その報恩出版ともなった。

尚、この『心経止啼銭』と盤珪の心経註解本との関連につ

いて、古田紹欽氏の注目すべき論考がある。（般若心経の註釈本をめぐって―盤珪と天桂―『し禅文化研究所紀要』第六号）



筆者所蔵・写本『心経止啼銭』

## 凡例

一、写本『退蔵螺蛤老人般若心経止啼銭』紹介に当り、曹洞全書所収本の再刻『心経止啼銭』を明治本、寛延四年の初刊本を寛延本、筆者所蔵の写本『心経止啼銭』を書写本と略称した。

一、写本の原型を保存するために、漢字や仮名使いは原文通りとした。但し印刷の都合上、止むを得ない場合は字体を改め、当用漢字を使用した。

一、書写本『心経止啼銭』は書き下し文であるため、句読点を付して読解に便ならしめた。但し、句読点の大半は寛延本に準拠したが、不要な箇所は改めた。

一、書写本と寛延本との本文異同、および書写本・寛延本と曹洞宗全書所収の明治本との本文異同は、巻末の註記に明記した。

## 退蔵螺蛤老人般若心経止啼銭

待者 某等 謹記

## 摩訶般若波羅蜜多心経

師云此経ニ八本ノ異訳アリ。此本ハ玄奘所訳ノ経ナリ。唯有正宗ニ無ニ序及流通、法月ノ訳本ニハ序流通共ニアリ、古注ニ載セリ考フベシ。此経諸家ノ注釈多シトイヘドモ、比々ミナ教迹ノ義解ヲ出テズ。ユヘニ念経照心ノ徒卻テ窠臼ヲ作シテ、出身ノ活路ヲ失ス。老僧今日諸人ノタメニ講説スルモノハ、直下ニ或從経卷ノ開仏知見アラシメンタメナリ。ユヘニ諸家ノ舊轍ニヨラズ。此経ノ宗要ヲ脱体ニ直説スルナリ。蓋夫心経トハ此経ノ題目ナリ。此経ハ大部六百卷ノ精要ヲ該テ如来一代時教モ此経ニ蘊攝セズト云コトナシ。イハユル此経トハ、唯二百余言ノ文字ヲ指スノミニアラズ。五蘊十二処十八界ノ諸法、ヲヨビ十方世界日月星辰山河大地。ミナコレ炳然タル此経ノ声名句文ナリ。コレ先仏ノ所説ニモアラズ。諸祖ノ提唱ニモアラズ。即是人々本有一卷ノ心経ナリトシルベシ。始メナキガユヘニ終リアルコトナク、十世古今法界国土、常住一相ノ心ニシテ、ツイニ迷悟ニアヅカルモノナキナリ。シカアレドモ、コレヲ常住ナルモノトミレバ常見ニナリ。虚無ナルモノト見レバ断見ニナリ。仏トミレバ仏見ニナリ。衆生ソノマ、トミレバ衆生見ニナル。シカアラバ如何ガ心得テヨキト云ニ、イカナリトモ思惟分別ヲツケテ、心得様ガアレバ、コシラヘ物ニナルナリ。爰ニオイテ往昔ヨリ法ニ志アル者大イニ錯リヲ、トルコトナリ。イカントナレバ一切ノ言説心縁ノ相ヲハナレ、声色有無ヲコヘテ、名モナク相モナクシテ、思惟分別ノ所解ニアラズ。一切手ノ着カヌモノナリト、ヲボヘズ一物ヲ認ムルナリ。ユヘニ仏一代ガ間、無心ノ無念ノ無相無為ノト、種々ノ分別ヲ遣ンガ為ニ、無ノ字ヲ説キ玉フ。兔モ角モ云ベキ様ナキニヨリテ、シバラク心ト名付ルナリ。若昔ヨリ心ト云字ナクハ、ナニトモ云ベキ様ハアルマジキナリ。人々只心ト云名ヲオボヘテ、其名ニ惑ヒテ、ヒタスラニ心ヲ明メントオモヒ、心ヲソコ子ヌ又様ニセントオモヒ、種々ニ分別スレバ分別スルホド分別者ニナルナリ。心ト云ヒ道ト云ヒ、空ノ菩提ノ涅槃ノ般若ノト云ハ、ミナ美名ヲツケテ、ホメタルモノゾトシリタラバ、独手ガ離ルベキナリ。ソレナラバ這処ハ一切ノ名相文字ナクシテ、ナニトモ思ハレモ言レモセヌモノナリト。又マワツテ分別センコトヲ悲愍シテ、経ノ中ニ叮嚀ニ説玉ヘリ。遊魂ヲ招ヒテ諦聴スベシ。○摩訶トハ梵語、唐ニハ大ト云。大論ノ中ニ大多勝ノ三義ヲ含ト説テ、共ニ般若ヲ称讚ノ義ナリ。般若ヲ唐ニハ智慧ト云。波羅蜜多ヲ到彼岸ト云ナリ。摩訶ト云モ心体無辺ナルコトヲ称美ノ語ナリ。必ズ大ヒナル心ガアル

ト思フタラバ、生死流轉ノ根ヲ堅ムルナリ。夫十界ノ依正、森羅万像大小方圓、ミナコレ自心所現ノ影像ニシテ、堅ニ三際ヲ尽シ横ニ十方ニ弥テ力所アルコトナク、シカモ一切ノ諸相闡爾トシテ蹤ナク、一法ノ得ベキアルコトナシ。如是心量ノ無邊際ナルヲ大ト云。只コノ大ハ所謂絶対ノ大ニシテ大小ノ大ニアラズ。コ、ヲ老僧ガ語路ヲ逐ズ。親シク自己ニ信得セバ、タ、大ノ一字ニテモ仏ノ本懷ヲ見尽スナリ。○般若ノ智慧ト云モ、摩訶ノ義理ト毫釐モタガヒナケレドモ、親シク知センタメニ、同シ心ノコトヲ名ヲカヘテ、智慧ト説キ玉フナリ。シカルニ多クノ人智慧ト云ヘバ、何トヤラン好キ物ノ有リテ、光リ輝ヤク様ニオモフ。サニハアラザルナリ。智慧ト云ハ唯人々ノ自在ナル徳ヲホメタル名ナリ。或ヒハ智慧ヲ体ト用トニ分テ云コトアレドモ、其様ニ細カニ分別スレバ、佛法ノ物知ニナリテ、自己ノ眼ヲ失スルナリ。人々ノ自在ナル徳トハ、先見聞ニツイテ云ハ、内ニ物アリテ、ソレガ見タリ聞タリスルニハアラザレドモ、眼ノ縁、耳ノ縁デ、白ヒ黒ヒヲ見錯リモセズ、鳥ノ声太鼓ノ声聴チガヒモナク、暑サ寒サ起ツ居ツ。一切事ニ心ヲモチヒズシテ妙不思議ニシル、コレヲ本然明カナル智慧ト云ナリ。コノ智慧ハ諸仏諸祖オヨビ禽獸等ニイタルマデ、増コトモナク減コトモナク、同一円具ナリ。只明カニ辨ヘタルト辨ベザルトノ差ヒナリ。華嚴經ニモ、心ト仏ト及ビ衆生ト是三差別ナシト説玉フ。其余ノ文字ヲシリ、經論ヲオボヘ、詩ヲ作り歌ヲ詠ミ、世間ノ事ニ賢コキト、愚ニシテ不才無能ナルトハ、タトヘバ金銀沢山ニ持タルト持ザルトノ如クニシテ、人ニ少シモ差ヒハナシ。事ヲ多ク知リタルガ羨マシクモナク、知ラザルガ氣ノ毒ニモナシ。然ルニ此ノ智慧ニオヒテ、正トモナリ邪トモナリ、賢トモナリ愚トモナリ、十道ノ異類己レガ分別次第ニ転ズルナリ。ソノ十界ノワカレアルコトハ、譬バ明カナル鏡ノゴトク、好キ顔ヲウツシ、醜キ面ヲウツシ、黒白長短アラユル物ヲウツスニ、其ノ物トノゴトク、微塵モチガワズ、ウツリアラハル。シカアレドモ鏡ノ方ヨリ好キ影ヲ留メ、醜キ影ヲ嫌フト云コトモナク、ソレノ二品ヲタガヘス。コレ鏡ノ無私ニシテ明カナル徳ナリ。人心ノ徳モコレニ似タリ。然レドモ人ノ心ハ好事イタレバ悦ビテトリツキ。惡事イタレハ憎ミテイトフ。コレヨリシテ貪欲ノ瞋恚ノ愚癡ノト云モノ根帯ナフシテソダテユク。ユヘニ十界ノ分レトナルナリ。又愚ナル者ハ、上ノ鏡ノタトヘニツイテモ錯會スルコトアリ。抑々人心ノタトフベキ様ナキガユヘニ、暫ク明鏡ヲ仮テタトヘニ引ナリ。必シモ鏡ノ様ニ体アツテ、磨リ磋キテ明カニナルモノトオモフベカラズ。私シナク照スマ、ニ照シテ自在ナル処ヲトリテ、タトヘタルモノナリ。去ニ依テ六祖大師ノ明鏡又非台ト仰セラレシハ此事ナリ。ソレナラバ好キ事ヲ愛セヌ様、惡キ事ヲ嫌ハヌ様ニ、用心スルカトイヘバ、然ルニハアラズ。上ノ鏡ノ如ク信肯シテモ、昔ヨリ憎ミツケ愛シツケ瞋リツケタル

クセナレバ、吾モオボヘズ時々起ルニ似タレドモ、実ノ如ク心源ヲ証スレバ、起ルニ似タル貪瞋恚ソノマ、本智不生ノ仏光明ナリ。諸人即今三毒ノ性ヲイカントヒ子ツテ見ヨ。直下火裡ノ蓮、氷河ノ焰<sup>ホノ</sup>ナラン。去ニ依テ文殊大士ノ「貪欲、瞋恚、實際、瞋恚、實際、愚癡、實際」ト説玉フ。コ、ガ大事ノ場ニシテ、一步錯レバ墮獄ノ業トナリ、因果撻無ノ外道トナルナリ。三毒ノ性ソレマ、實際本智トイヘバ、サテハ心易キコト、オボヘテ、私情ノ得手方<sup>ウ</sup>ニ走り、元ヨリ仏法ニ志<sup>ツ</sup>ナキ者ヨリモ放逸ニナル。シカアレバトテ、種々ノ惡業ヲ作シタル罪ガヲソロシキニヨリ、誦經禮懺シ念仏持咒ナドシテ消滅セントスルハ、日下ニ己レガ影ヲ怖レテ、逃レント走ルノ愚ニ似タリ。一切ミナ己レガ分別ノ影坊子ト知レバ、怖レ屏クルコトモナク、守リ育<sup>ソク</sup>テモセズ、其影ソノマ、不生不滅ノ本地ナリ。鏡ノ物ヲウツストキニ、鏡ノ内ヨリ出モセズ、外ヨリ入りモセズ、中間ヨリ生シタデモナシ。只法爾トシテ明カニ顯ハレタルニ似タリ。コレ不生ナル証拠ナリ。ソノ影ノ滅スルトキニ鏡ノ内へ入り、カクレタルニモアラズ、外へ出去ルニモアラズ、只如然トシテ影ノ滅シタルニ似タリ。コレ不滅ナル表準ナリ。元古仏ノ生ノ死トナルトイワズ。コノユヘニ不滅ト云ヒ、死ノ生トナルトイワズ。コノユヘニ不生ト云ト、示シ玉フ宗旨是ナリ。吾人ノ境界十二時中、眼ノ縁、耳ノ縁、六根トモニ物々照對スル三千八百ノ縁、アリノト心ニウツリキタル様ナレトモ。竟<sup>ヒ</sup>ニ生滅去來スルモノナキナリ。如是親シク決<sup>決</sup>定シタル時ハ、一切善惡ノ境界ニオイテ、ヒトリ自在ナルコトナリ。シカアルヲ善事ガアリ、惡事ガアルモノトオモヒ、順逆ノ縁影ヲ認メテ、愛シタリ憎ンダリスルハ、犬ノ井ニ臨ミテ己レガ影ヲ吠ルガゴトシ。是ヲ本来円具ノ大智般若ヲ昧マスト云フナリ。又見聞ノ上へ不生不滅ノ本智ナリト云ニツイテ。多ノ禪者が見聞ノ主人公ナゾト尋子、或ハ見様トハセ子ドモ、何心ナク見ル。初一念ノ当処ガ不生ノ仏ナリト云フ人モアリ、コレラハミナ情識ノ推量ニシテ、イヨク生死ノ根ヲ堅ムルナリ。夫レ主ト云フハ、一切自在ナル処ノ名ナリ。意ニナニモナキトキハ、何ノ氣ヅカヒ遠慮ナク、人家ノ主人ノ如クナリ。シカアルヲ見聞ニ主人ガアルト思フテ追ヒマハルハ、恰モ犬ノ自ラ尾ヲカムガ如シ。又初一念ノ第二念ノト云ハナキコトナリ。百千ノ念ニ至テモ只一念ナリ。タトヘバ声ヲ不図聞テモ、分別ヲ離シテ聞キ、次ニ今ノ声ハ好ヒ惡ヒト思<sup>ツ</sup>モ初ノ通りナリ。思フモ思フマヒモ子ドモ好惡明カニ思フ。ドコマデモソノ如クナリ、初一念ノ処ヲ好ト取ルハ、賊ヲ認メテ子トナスナリ。二念三念ハ惡ト捨ルハ、子ヲ認メテ賊トナスナリ。タゞ念々一念ノ轉処ニシテ、一念無念トシル是正念ナリ。然レドモ又無念ナラント錯テ造作スルコトナカレ。○波羅蜜多ヲ到彼岸ト云コトハ、一切衆生本來成仏ニシテ、自性清淨ナルコトヲ知ズシテ、吾ハ迷フタリト生死海中ニ漂流スルハ此岸ニ

居ル様ナルモノナリ。直ニ自心ノ無性ナルコトヲ了徹スルヲ、彼岸ニ到ルト云ナリ。必シモ此心ヲ明メテ、彼ノ岸ニ渡リテ到ル様ナルコトガアルデハナイ。且ク生死ヲ大海ニタトヘタルニツイテ、生死ヲ解脱シタル人ヲ彼岸ニ到ト云ヒ、解脱ヲ得ヌ人ヲ此岸ニ居ルト云ナリ。シカアレバ先ツ生死ト云コトヲ能知ルベシ。凡夫ハ生ヲ愛シ死ヲ憎ム。此身ハ法性ノ大海ニ、浮漚ノゴトク縁ヨリ起リタルモノヲ、吾ガ身トオボヘテヨリコノカタ、縁会シテ生アルヲ好トシ、縁尽テ死ニ臨ヲ惡シトオモフ。コノ思想ニ、生死スルマデニシテ、外ニ生死スル物ハナキナリ。一切衆生本ヨリ生死ニ干ラヌモノニシテ、生ルレドモ生ル、辨マヘナケレバ生ヲ離レテ生ル。然ルヲアトヨリ生レタリト分別シ、死スルモ死ノ辨マヘナケレバ、死ヲ離レテ死ス。シカルヲ死ノ到ラヌサキニ死ヲ分別スルユヘニ、生死ナキ中ニ我ト生死ヲ見出スコト、目ヲ病ム人ノ空裡ニ華ヲミルガゴトク、タゞ縁起ニシテ実ナキモノナリ。太凡コノ身ハ何物ナルゾト云ニ、ヒヨツト我トオボヘタ思想ガ形段トナル。ソノ思想ヲ直ニ返シ照シテミレハ、本ヨリ自性ナキナリ。去ニ依テ生死ヲ分別セズ、実ノ如ク自心自性ナキコトヲ決(決)定シタレバ、誰アリテ生死ニワタルベキヤ、如シ是証シタル人ヲ、到彼岸トモ解脱トモ云ナリ。又解脱ト云テ、結ビタル絲ヲ解ヒタル様ナコトガアルニハアラズ。自心本ヨリ一切ノ障礙ナキヲ解脱ト云。タトヘバ思ヒガケナキ無実ノ事ヲ、人ニ云ヒカケラレ意ニ氣ノ毒ナト思ヘハ、誰レシメク、リモセ子ドモ、繩ニテ縛ラレタルガ如シ。爾時ニサキヨリ其方ノ事デハナカリシトイヘバ、ソノマ、意カ解ル如クナリ氣ノ毒ナト思フ時、心ガ黒クモ小サクモナラズ。其事スミシトテ白クモ大キニモナラヌモノナリ。静カニ自己ノオダマキヲ、クリカヘシ照シテミヨ。汝カ心ノ白絲ハ、本ヨリ結ビテモナケレバ、解タルニモアラヌナリ。シカアルニコノ正伝ノ宗旨ヲ聽ヌ輩ハ、生死ヲ越ヘ渡ルモノアリトオモフヨリ。惡キ事ヲ甚シク嫌ヒ。好キ事ヲ大ヒニ愛スル。ソノ思想ク鉄城ヨリモ堅シ。ユヘニ生死ノ輪廻ヤムコトナシ。直下ニソノ心源ヲ照シテ見ヨ。万劫無量ノ生死去来、タゞ空裡ノ華ノ如ク、昨夜ノ夢ニ似タリ。西ヘ向タル頭ベヲ東ヘ子ジ向クヨリモ疾クソノマ、本成ノ法身仏ナリ。コレヲ大解脱トモ云ヒ、生死即涅槃トモ云ナリ。即ト云モ生死ト涅槃トヲ、ドコトモナク別物ノ様ニオボヘテイル人ヲ引入スルノ語ナリ。此ノ大事ヲ明ラメザレバ生死ナリ。了ズレバ即涅槃ナリ。タトヘハ西向キニ坐シナガラ東シ向キトオボヘテイルヲ、人アリテソレハ西向ナリト云トキ、サテハ西ナリトシルニ、方角ハ少シモカワラヌ。タゞ不図ヲボヘチガヘタマデナリ。然ラバ人々此事ヲ明ムル時ハ、ミナ涅槃ニ到ルカト云ニ、実ニ明ムレハ本ヨリ涅槃ト云モノモナキナリ。生死ト云モノヲ見ルニヨリテ、其思想ヲ転ゼンガタメニ涅槃ト云美言ヲ説テ。シバラク取替ヘタルモノナリ。生死ノ念緒サヘタヘタラ

バ、アトニハ何モ残ルモノナシ。此、処容易ニ体得シガタシ。仏学ノ者多ハ涅槃ト云モノヲ死抱シテ万劫ノ繫驢概トナリ。酒  
ミ落ミナルモノ少シ。○心經ノ心ノ字ハ、前ニ委シク云ゴトク、箇々本然円明ニシテ、言語ノ道モタヘ、心行モツキタル処  
ニテ何トモ名ノツケ様ナキニヨリ、心ト云タルコトナリ。是ヲ明カナリト云ヘバ、光リノアル様ニオモヒ。円カナリト云ヘ  
バ、丸ルイモノナリトオモヒ。有トイヘバ形段アルオモヒヲナシ。空トイヘバ物ヲ空尽シテ、ナニモナキ様ナルオモヒヲナ  
ス。兎角ドフナリトモ、<sup>メクラ</sup>盲目ドチクデ云ヒ次第ニトリツクユヘニ、カタヨラズニ心ト名付ケタルナリ。シカルニコノ心ノ字  
ヲイツトモナク、我が心トオボヘテ、ナニヤラ心ト云モノ、胸ノ内ニアル様ナルハ、汝ガ思想クナリ。此、心ノ字ヲヨク  
知テミヨ。紙ニアラハシタルハ、墨ノ色ニテ、コ、ロ、ノ、ト唱ヘテモ、タ、語音ノヒ、キノミナリ。又ソノ文字ヲ一劃宛ハ  
ナシテミレバ、只筆ノ跡ノミナリ。サリトテハ笑シキモノヲ認メテ、心ナリトオボユルナリ。ソノ様ニ云ハ、人ノ本性  
ハ、ヤクタイモナキモノカト云ヘバ、ヤクタイモナイト云コトナキナリ。彼レノ此レノト思想クヲツクルホド生々世々輪廻  
ノ大本トナルナリ。況ンヤ一切善惡ノ境ヲ取捨スルモノヲヤ。コ、デ又著我ノ情ツキザル者ハ断見空見ニ落ルト云テ怖ル  
コトナリ。コレヲ古人ガ尽ク望<sup>チ</sup>崖退<sup>ニ</sup>クト呵責セリ。タ、返ス、モ見コレ病トシルベシ。断ト見常ト見仏ノ衆生ノト、見  
レバ見ル様ニ見ニ落ル。ソノ所見サヘ止メバ、即<sup>チ</sup>仏ノ説玉フ大涅槃ナリ。モシ断ノ字無ノ字ガ病ナラバ、言語道断ト云モ断  
見ナルカ。五蘊皆空ノ無色声香ノト説モ、無ノ見ナランカ。シカラバ仏ハ一番ニ空見ニ落タルモノナラン。シカアルベカラ  
ズ。ユヘニ善惡一切ノ事ニオイテ、所見ガ病ニテ生死ノ種<sup>ク</sup>因トナル。如<sup>レ</sup>是了ズル人ノ手前ニハ、ナニト見テモ病ハナキナ  
リ。コレヲ楞嚴經ニ「見<sup>スル</sup>見時見<sup>ス</sup>是非<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>猶離<sup>ル</sup>見<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>不能<sup>ス</sup>及<sup>ス</sup>」ト説玉フ。言意ハ即今見ノ当体本ヨリ見ヲ離レテ見ト云名  
モツケ処ナキ、コレヲ不能及トノ玉フナリ。此、語モ古今共ニ真見ノ妄(妄)見ノト分ケテミル説アレドモ、ソレハ皆計較ノ所説  
ナリ。○經ノ字ハ常也法也ト訓ズ。常トハ古今不易ノ義ニシテ、人々久遠劫ヨリ未来際ヲ尽シテ。生死ノ変易アルコトナク、  
本然無自性ナルヲ常住ノ仏性ト云フ。法トハ凡聖同遵ノ法ニシテ、一切衆生日用光中、六根門頭ノ縁ニ随フマ、ニ明カナル  
不可思議ノ化用ヲ云フ。常ト云ヒ法ト云モ語異ナルノミニシテ意口同シ。經ト云テ他ノ閒文死(死)句ノコトニハアラス。唯、  
汝ガ自心ノ本徳ヲサシテ大經卷ト云ナリ。古人ノ桃花ヲ見テ悟道シ、擊竹ヲ聞テ明心スル、コレ眼処耳処ノ經卷ナリ。楞嚴經  
ニ二十五ノ円通ヲ説キシニ、悟入ノ縁別々ナルガ如ク、坐臥經行見聞覺知ノ上、或ハ一棒一喝ノ下ニテモ、自性ヲ見ルコト吾  
ガ掌中ヲ觀ル如クニ通ズレバ、其、通処ガ即チ經卷ナリ。如来一代時教ノ中ニ此、經トアルハ、ミナ箇々本有ノ仏性ヲ指シテ宣



玉ナリ。カク云へバ、心サへ知タレバ經ハイラヌト云人アリ。森羅万象悉皆是、經ト云時ニ、其レハソデナイト云モノガ有郎カ。況ンヤ今仏ノ經卷ハ、仏在世ノ法要甚深微妙ノ説ナレバ、身命ニ替ヘテ尊重シ恭敬スベキナリ。大凡、經ト云モノ此様ニ意得タラバ、大ナル錯リハアルマジキナリ。若、審細ニ經ノ事ヲ云ハ、千日千夜説キタリトモ尽キセヌナリ。此經ノ題号ニ就テモ、サマノノ説アレドモ、ソレハ知ツテモイラヌコトナリ。大概上ニ云ゴトクニ信得スレハ、本經ノ説相ハ知タ路ヲ行ク様ナルベシ。徒ラニ此經ハ般若ノ道理ヲ説キタルモノトノミ意得レバ、イツノマニヤラ般若ト云フ言葉ニ転ゼラレテ、余所ゴトノ様ニオボユルアリ。唯心經ト云ナレバ自心ノ義ヲ鏡ニ面ヲウツス如ク、アラハシタルト見ルベシ。此經ノミニ非ズ、一切ノ經論祖語ミナ如レ是自己ニ歸シテ見ヨ。左ナクハ博覽強記タリトモ、ナンノ益ナシ。看過スルコト勿レ。

觀自在菩薩 觀自在トハ異人ニアラス、汝諸人は是レナリ。

何ヲカ觀自在ト云フ。眼ヲ開ケバ森羅万象アリノトアラワレ、耳ニ通ズルコトハ無量ノ音聲間断ナシ。六根ミナ如レ是千萬無量ノ事、一事ニ対スレドモ、一ツトシテ見ヌ事モナク聞ヌ事モナシ。此心ノ自在ナルコト、言詮ノ及フベキナシ。去ニ依テ華嚴經ノ中ニ十鏡ノ喻ヲ以テ説テアル。其、喻ハ鏡ヲ十方ニ懸クルトキ、九ノ鏡ガ一ノ鏡ニウツル。其、鏡ノ内ヲミレバ、百千ノ鏡が見ユル。シカレドモ少シモ鏡ノ鏡ヲ礙ルコトナク、広クモナラス狭クモナラス。其、如ク人ノ心ニ日用百千万ノ事ガ移リ来レドモ、心ニ事多シト思フコトモナク、目ニ見ル中ニ声ヲ聞キ、舌ニ味ヒ身ニ寒暖一度ニ来レドモ。目ノ見止ムヲ待テ耳ニ入ル声ノ遍ズルト云コトモナク、六根共ニ互ヒニ融通シテ礙ルコトナシ。如レ是ニ觀ズルコトノ自在ナルユヘニ、各人ノ自己ヲサシテ觀自在菩薩ト云ナリ。觀ハ見ルト訓ズル字ナレバ、眼ノ事バカリノ様ナレドモ、一ツヲ拳ゲテ六根ミナ同ジキコトヲ示シ玉フモノナリ。菩薩トイヘバ吾シラズニ他ノ事ノ様ニオボユルハ凡情ノ常ナリ。菩薩トハ梵語、具ニハ菩提薩埵ト云。唐ニハ覺衆生ト翻ズ。上求ニ菩提、下救ニ衆生、ノ義ニシテ、専ラ慈悲ヲ以テ命根トスルナリ。又慈悲ト云へバ、多クノ人サテモ哀レヤ悲シヤト云フ慈悲トオボヘテ、コシラヘントスル。ソレハ愛見ノ大悲ト云テ、愛著ノ見ニ落ルナリ。慈悲トハ自心ノ本徳ニテ拵ヘ出スモノニハアラズ。仏ト衆生ト本ヨリ毫釐モ隔テヌヘニ、非道ニ犯カシ悩マスベキ衆生ハ独リモナキナリ。只貴賤上下僧俗男女一切時処本然トシテアルベキ様ニ度ルヲ、大悲ノ光明三昧ト云フナリ。此ノ大悲ノ事ニ就テモ種々ノ説アレドモ、煩ハシク云テ益ナシ。唯慥カニ自身觀自在菩薩ナリト決(決)定スベシ。コレヲ大心ノ人ト云フナリ。

行スルニ深般若波羅蜜多ヲ時 行ズルト云テ造作サシテ行ズルニアラズ。從晝至夜施為云動、直ニ般若ヲ行ズルノ威儀ト知ベシ。然

ルニ一切時処般若ナリト云ヘバトテ、起ツモ般若若居ルモ般若ト事毎トニ般若ヲ著テミルニハアラズ。ソレデハ般若ト云添ヒ物ガデキルナリ。唯タ起ツハ起ナリ。居ルハ居ルナリ。触向無辺ノ般若ニシテ觀自在ナルナリ。コレヲ古人モ般若ハシ如火聚四辺不ルカ可ル取ルト云ヘリ。或ハ一般人ノ謂クク一切時処般若ニシテ觀自在ナラバ、貪欲瞋恚等一切ノ惡ヲ作スモ、般若ノ行ナリト瓦ヲ認メテ珠トスル者アリ。イカニモ外ノ物デハナケレドモ、ヨクノ思惟シテミヨ、自心ト云フモノヲ、ドコトモナク好物ナリトオボヘテ、自心ト自心ニ著スルユヘニ、其時ノ名ヲ我ト云ナリ。我ト云モノ、タゞ汝ガ思想クノミニシテ、ナニモ無レドモ有ルモノ、様ニ思フユヘニ、己レニ相応ノ事ヲバ貪リ、己レニ違フトキハ瞋リテ種々ノ相ヲアラハス。ソレハ畢竟自心ヲ知ズシテ、我ニ隔テラレテ起ス虚妄ノ邪見ナリ。コノ時ノ名ヲ愚癡トハ云ナリ。シカレバ愚癡モ自心、智慧モ自心ニテ或時ハ善人ニナリ、或時ハ惡人ニナリ、独リ狂言スル様ナルモノニシテ、仏界ヨリ衆生界ニイタルマデ、一トシテ一心ノ幻作ナラヌモノハナシ。自心本ヨリ徧界不藏ニシテ十世古今当念ニ現前スレドモ、何ヲサシテ自心ノ智慧ノト貌カタドリ名ツクベキ物ナキナリ。如レ是自心ノ本然ヲ明ムレバ、貪欲トモ、瞋恚トモ、般若トモ、自心トモ名ノツケ様ノナキモノナリ。爰ヲ明ニ了ジテ、瞋ラハ火焰ホドモ瞋リ。欲ガ起ラバ山ホドモ起シテミヨ、仮令起ヒルモ自仏ノ光明ナリ。起ルヲ嫌フトキハ嫌扱ナリ。取リソダツツレハ実ニ瞋恚ト云モノニナリテ、コレヨリ種々ノ境界ヲ建立シ生ヲ取ルナリ。如レ実ニ自心ノ無自性ナルコトヲ知テ、起ラハ起ルマ、止マバ止ムマ、ニシテ、取捨脱落ナルトキハ、眼ヲ開ヒテ世界ヲ見ルガゴトキ、山川大地艸芥人畜、一切諸法サマノアレドモ、皆是汝ガ眼ヨリ出ル大光明ナリ。此ノ一事ニ通徹スレバ、百千無量ノ事ニ通達シテ、少シモ心ニ煩フコトナシ。コレヲ真ニ行般若ノ菩薩ト名ヅクルナリ。本文ニ時ト云、コレモ般若ヲ行ズル時ノアルト云ニハアラズ。自心ノ智慧ヲ親シク了ズル其時ナリ。如レ是知テ見ヨ、二六時中サワリ罣碍コレナク、這箇ノ時ニシテ心外ニ別時ナシ。劫ヨリ劫ニ至リテ只此ノ一念一時ナリ。更ニ一念ノ量一時ノ際如何ト見ヨ、虚空地ニ落ち大地烈破セシ。

照ニ見メ五蘊皆空ト度スニ一切苦厄ヲ 五蘊トハ色受想行識ナリ。色トハ色身ナリ。受トハ六根ニ色声香味触法ヲ受ルナリ。想トハ

苦樂怨親等ヲ思フナリ。行トハ昨日ノ身今日ニ遷リ、今日ハ明日ニ遷リ、少ヨリ老ニ至ル、コノ移リ變ル処ト日用手足ノ運動トヲ云ナリ。識トハ如上ノ事一々ニ了別スルヲ云ナリ。蘊トハ積聚ノ義ニテ所有アユル色ヲ一聚トシテ色蘊トス。余ノ四蘊モ又同シ。五蘊皆空ナリト云ハ、凡夫ノ情トシテ、コノ色身実ニ有ルモノト思フヨリ、生ヲ悦ビ死ヲ悲ンテ一切事ニツキ苦惱ヲ

生ズルナリ。ソレ此身ハ父母交合ノ因縁ヨリ起リタルモノユヘニ、縁起元自性アルコトナシ。喩ヘハ燈火ノ如キ、燈心ト油ト蓋トノ縁デ、アリノト燃レトモ、ソノ火性ヲ求ルニ了レ得ベキナシ。色身モソノ如ク地水火風ヲ一ニ返ヘシ畢テ後ニ空ト云ハ、暫ク有相ノ目ニ掛ル人ノ為ニ云タルコトナリ。四大ヲ本ヘ返スニ及バズ。ソノマ、皆空ニシテ返スベキモノナシ。受想行識共ニ縁起ニシテ実ナキモノト知ラヌ一念ヨリ、色ガ眼ニ対シ声ガ耳ニ入タト思ヒ、六根共ニソノ如クニ想フ。ソノ思想トモニ縁起ノ影ナルコトヲシラズ。実ニ縁ニ移リ、少ヨリ老ニ至ルト想フ。皆コレ汝ガ分別ナリ。分別ナキニ色身ノ方ヨリ老ナリ少ナリトハ云ヌナリ。識ト云モ、タダ縁ニ対スル時ハ了別シテシルニ似タレドモ、影ノ如ク響ノ如クニシテ、思想ヨリ外、微塵バカリモ物ナキヲ、実ニ有モノト思フユヘニ、其思想カ一物トナルナリ。又コノ了別スルモノヲ本心ナリト執著人多シ。是ヲ仏モ認レ賊為レ子ト呵責シ、古徳モ「無量劫来生死本癡人喚為ニ本来人」ト云ヘリ。実有ノ思想ヨリ、人トナリ天トナリ、十界種々ノ境界ニ渡テ、車ノ廻ルガ如ク生ヲ引キ形段ヲ取テ輪廻止ムコトナシ。諸仏諸祖トモニ、コレヲ憐ミテ自心本来清淨円明ニシテ、生死アルコトナク、五蘊皆空ナルト示シ玉フモ、汝ガ輪廻ノ妄分別ヲ止ンガタメナリ。上ノ如ク自心一物ナキコトヲ証スルトキハ、五蘊ノ空ナルト会スルノミデハナイ。ソノ空ナリト解スル分別モナキ時ヲ強テ名ヅケテ真空ヲ得タリト云ナリ。如レ是了ズル時ハ生レシ前キノ過去モナク、再ビ生ヲ取ルト云フ未来モナク、去来共ニナケレバ自カラ現在モナシ。三世スデニ無レハ一心ト云コトモナク、仏デモナク衆生テモナシ。ユヘニ因果モナク、因果撻無スルト云フコトモナシ。如レ是一切ノ名相ナキニ依テ、コ、ヲ仏トモ名ヅケ、空トモ清淨トモ円明トモ云ヘルナリ。シカレドモ此処慥ニ究メズシテ微塵バカリモ所見アレバ、ソノ見即我ト云モノニナツテ生ヲ引クナリ。向ニ云フ如ク、明メタル眼ヨリハ、生死ノ輪廻悉ク空華ノ色々ナリ。コノ時ハ日用千差万別ノ上、取リモセズ捨テモセズ、違順ノ境共ニ夢中ノ違順ナリト知リテ、違フヲ憎マズ順フヲ愛セズ、又憎ミ愛スマジキト云フ用心モセズ、金銀財宝モソノゴトク嫌ヒモセズ貪ボリモセズ。只有ノマ、ニ用ヒユク時ハ、鳥ノ空ヲ飛トキ空ニ跡ナク、魚ノ水ニ游ヒテ往来サワリナキガ如シ。君臣父子夫婦兄弟等一切事ソレノマ、其道ニ差ハズ、居常眞實ニシテ穩々当々ナルベシ。元古仏ノ歌ニ「水鳥ノ往クモ返ルモ跡タヘテ、サレドモ路ハタガハザリケリ」ト詠シ玉フゴトシ。如レ是現在ノ色身ソノママ生滅ナキガユヘニ、縁尽キタト云テモ、今日ニ異ナルコトナシ。古人曰「但斯形骸優是其人皮袋一靈一靈皮袋」ト、コレ此道理ナリ。此処参玄徒、切ニ究明スベキ処ナリ。或ハ此事埒明タル人ノ死シタル時ハ、心ハドノ様ニナルモノゾト疑フ。夫レ現今ノ一念明カニ了スルトキハ、モロノ分

別思惟ヲ離シテ、生滅ニ涉タルモノナシ。然レバ生涯ノ縁ツキテ六根閉塞シ、四大分離ノ時ハ何ニトナルヘキゾ、此処老僧委曲ニ云コト易ケレドモ、諸人著カノタメニ云ヒノコスナリ。実ニニ参究スベシ。爰テ又多ノ人ソレテハ空見断見ニ落ルト云テ怖ル、。若僅カモ空ト見断ト見ルナラバ、生死ノ流轉ナリ。ソノ空ト思ヒ無ト想フモノハ有ナリヤ空ナリヤ。シカレドモ生死涅槃昨夢ノ如シト知ラヌ人ノ手前デハ、色身モアリ生死モアリ、諸法モアルモノナリト思フ。喩ヘバ夢見ルトキ夢ナリト辨ヘヌ様ナルモノナリ。覺テミレバ扱テモ夢ナリト知レドモ、覺ヌ中ハ谷ヘ落チ蛇ニ追ハレテ汗ヲ出シテ苦惱ナリ。ソノ如ク覺タル人ハ、十界ノ依正悉ク空華ナルコトヲシラデ、娑リニ境界ヲ取り苦シムモノカナト知ルナリ。夢ノ覺ヌ人ハ、此生終テモ又生ヲ引生ヲ引シテ、後ニハ被毛戴角シテ、限リナキ苦惱ヲ受ク。ソレヨリ夢カ次第ニ深クナルホドニ、仏トモ法トモ善トモ惡トモシラズ、永生死ノ闇ニ苦シムコト、サリトテハ笑止ナルコトナリ。去ニ依テ今日コノ身ノ自由ナル時節ヨク／＼精彩ヲ著クベシ。一足踏ミ差ヘテモ、トリカヘシナラヌモノナリ。順逆是非一切事ノ上、自心ノ無性ナルコトヲ返照シテ工夫親切ナレバ、独り生死分別ノ手ガ離レ、コソ一段ニ説ク処ノ真空ノ道理明ラカニ通ズベシ。所以五蘊ノ空ナルコトヲ了ズル時ハ、一切善惡苦樂ノ所作業ヲヨビ山河大地即チ、空ナルヲシル。如是照シ見ルヲ一切苦厄ヲ度スト云ナリ。若実有ノ所見止マザレバ取捨憎愛ノ苦厄ツクルコトナシ。厄者災也困也ト註シテ苦厄義同シ。一切諸法分別ノ影ナリト性空ノ道理明ラカニ照見スルトキハ、十方界ノ有情非情一時ニ度脱シ了ルナリ。如何トナレバ眼コニ一法ヲ見ザレバ、一衆生ヲ見ズ、微塵ヲ見ザルナリ。是ヲ楞嚴經ニモ「一人発真帰源十方虚空悉皆消殞」ト説キ玉ヘリ。コウ云ヘバ又ナニモカモ空ニナリト聴キソコナフテ、吾レシラズ、空見ガ起ルニ依テ、次ノ本文ニ委曲ニ告玉フナリ。

舍利子。色不異空、空不異色。色即是空、空即是色。受想行識亦復如是。舍利弗。唐ニハ身子ト翻ズ。今華梵兼テ舍利子ト云フ。如来ノ大弟子ニテ智慧第一ト称ス。ユヘニ其名ヲ喚ンデ告玉フナリ。空ト云ハ色ヲ消テ空ト云ニアラズ。一切諸法アラユル色ノ相ノ上ヘ当体色相ヲ見ズ、有ナガラ空ナルモノナリ。故ニ色ニアラズ、空ナリト云フベキヲ異ナラズトハ宣フナリ。又此ニ取り著キテ万般ノ事ヲ空ナルモノナリト思ヒ、後ニハ人ノ常道ヲ失ナヒ、父母モ空ナリ兄弟モ空ナリ。上人下人ミナ空ナリト云ツテ、敬ヒモナク憐ミモナキ様ニナル。ソレハ得手勝手ノ空ナリ。ユヘニ再ビ空不異色ト宣フ。一切空ナルガユヘニ、又一微塵トシテ礙ヘルコトナク、空トシテ色ニアラザルハナシ。天ハ天ナリ地ハ地ナリ、僧ハ僧、俗ハ俗、父母兄弟一切諸法タゞアリノママニシテ、サワリナキナリ。爰ヲ詳カニ知ラセンタメニ、重子テ色即是空空即是色ト示シ玉フナ

リ。爰ニオヒテ微塵、バカリモ空ナリ色ナリト分別ノ見ヲツクレバ、ワルヒゾト又トリカヘテ、押へ抱へノ分別ヲ生ズルユヘニ、物ゴト不自由ニナルナリ。自心脱体性空ニシテ礙リナキユヘニ、一切諸法毫髪モ妨クルコトナキコト、鏡ノ虚明ニシテ列像ヲサヘザルガ如シ。コ、デサツパリト手が離レ子バ、觀音ノ三十二応身モ仏ノ説キ玉ヘル身ヲ十方ニ分ツテ、一切衆生ノ願ニ随ヒ化度スルコトハ通ゼヌナリ。コ、ハ大切ノ場ニテ人ノ根機ニ依テアゲヲロシノ六敷キトコロナルユヘニ、云ヒ尽サレズ。宜シク自己ニ參究スヘシ。受想行識モ亦復如レ是準ジテ知ルベシ。

舍利子是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。舍利弗ヲ再呼シテ詳ラカニ知ラシム。色モ空ナリ空モ色ナリ。空モ

色モ你カ分別スレバ、意ト言ハトノアヤデニツアル様ニ思ヒ、或ヒハニツハナイ一ツヂヤト想フ、ソレハドチラデモ空有ノ分別ナリ。其分別ヲ遣ントテ、色不異空・不異色ト説玉フナリ。今日色身相續ノ上デハ、相アル様ナレドモ、本ヨリ縁起ニシテ自性ナシト徹見シテ、一切事上、手打払テ、押へ抱へノ分別ナケレバ、眼見耳聞乃至山河国土トモニ、如然トシテ、アリノマ、空相ナリ。然レドモ折リニ觸レテ吾レシラズニ愛ガ起リ腹ガ立チ姪心ガ起ル様ナレドモ、直ニ空愛空瞋空姪トシレバ、捺ヘルコトモナク、又トリソダテモセヌ、コノ時ハ縁ニ觸テ起ル三毒ガ即チ自己ノ光明ナリ。シカシ猊ハ大事ノ場ナリ。渾圓吞ニスベカラズ。実ノ如ク知テミヨ。一切ノ諸法ガ生シタモノデモノデモナク、滅スルモノデモナシ。穢レモ七子バ、淨クモナラズ。畢竟汝ガ分別ノ手が離レタレバ、諸法ノ方ヨリ生ヂヤ滅ヂヤトハ云ハヌナリ。不生不滅ノ事ハ、前ニ云タル如ク、一切見様ト思フ念ヲ生ゼ子ドモ、明カニ見ルナリ。念ヲ生ゼヌユヘニ、見止トイヘドモ滅スルモノナシ。種々ノ物多ク見ルトイヘドモ、増シモセズ。少ナク見ルトイヘドモ、減リモセズ。六根トモニ其ノ如ク万般ノ上へ、其儘不生不滅ナルコトヲ深く信シテ、分別デ分別ヲ追ヒマワラズ。念デ念ヲ捺ヘズ、只念々不生ナルガユヘニ、不滅ナリトシルヘシ。然レドモ不生不滅トイヘバ、ドコトモナク、ソノ様ナルモノガ有ル様ニ思ハル、ホドニ、ヨクく返照シテ、其思想ガタヘタラバ、往クモ生滅ヲ離レ。還ルモ生滅ヲ離レ、契飯飲茶大小便利、恰モ風ノ空ヲ行キ月ノ水ニ印スル如クニシテ、無障無礙自由自在ナリ。生滅ヲ離ル、ト云テ、着ヒタ物ノ離ルルト云フ様ナルコトニハアラズ。生ト見、滅ト見、垢ト見、淨ト見、増スノ滅ルノト云フ、分別ノ性ソノマ、脱躰モノナキヲ離ル、ト云ナリ。

是故空中無色。無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色声香味触法。無眼界。乃至無意識界。如上ノ所説水ヲ飲デ自ラ冷カナルヲ知ルゴトクナル時ハ、一切事ニ手が離レテ自在ナル、コレヲ仮ニ名ヅケテ空ト云ナリ。如レ是空中ニハ、何ヲ指

テ色受想行識トシ、色声香味触法トシ、眼界乃至意識界トセン。ユヘニナシノト宜玉フナリ。シカアルニ何モ角モナシナシトイヘバ、云ヒツブシテ無トミルニハアラ子ドモ、無ノ字ガサキニウカブユヘニ、吾レシラズニ無ノ字ガ病トナルナリ。去ルニ依テコノ見様ハ、空中無ノ色、無ノ受想行識ト読メバ、又機モ転ズルナリ。色モ無キマ、ノ色ナレバ、色ヲ妨ゲズ。受想行識モ無キマ、ノ受想行識ナレバ、何レヲ取り何レヲ捨ベキモナク、仏モ無キマ、ノ仏、衆生モ無キマ、ノ衆生、我モ無ノ我、人モ無ノ人ナリ。如レ是見徹スルヲ仏眼ト云ナリ。此眼ガ開ケ子バ、利物度生ハナラヌナリ。故ニ上ノ諸法空相ト云四字ヲヨクノ諦了セバ、仏ノ本懐ハ見尽スナリ。空ト云ヒ無ト云フモ、語異ナレドモ意同ジ。乃至トハ眼界ト初メヲオコシ。耳鼻舌身界ヲ略シタル語ナリ。五蘊ト六根六塵六識ノ十八界ト、一一ミナ有ニ似ルモノニシテ、シカモ電光ノ如クナリ。電トイヘバ又疾イモノト思フベカラズ。タゞアリノト光カレドモ何モナク、何モ無ケレドモ、アリノトミユル処ノ喩ヘニ云ナリ。故ニ古徳曰諸仏出興如ニ電トコレナリ。

無ニ無明ニ亦無ニ無明尽ニ乃至無ニ老死ニ亦無ニ老死尽ニ。此文ハ十二因縁ノ拳ス。縁覚所修ノ觀ナリ。十二因縁ノ義ハ諸注ニ委シ。此ノ無明ト云ニツイテ、龍樹大士ノ釈摩訶衍論ノ中ニ無明ニ六釈ヲナセリ。其第六ニ具足無明ト云コトヲ説ケリ。是常流ノ云ハレヌコトナリ。凡無明ト云ヘハ、幼年ヨリ惡ヒコトナリトオボヘテ、無明ガ積リテ有ル物ノ様ニ思フ左（左）ニハアラズ。自心ヲ知タト知ヌトノ差ヒバカリニテ、知ラヌ心ガ凝リテモナク、知タ心ガ解ルデモナイ。唯自心ヲ親シク肯フ時ハ、今マデ知ラヌ無明ノ実性ガ、ソノマ、明ラカナル仏心ナリ。コレヲ無明即明ト云。必シモ無明ヲ開ヒテ明ニナルニハアラズ。然レドモ自心ヲ知ラヌ。ユヘニ隔テラレテ、天地ノ差ヒトナルナリ。譬ヘバ大切ノ用事ヲ主君ヨリ云ヒツケラレ、イツノ何時ト時マデサ、レシコト、若シレテ其時ソ相凶ガチガヘバ、歎罪ニモ及ブナリ。コレ尙レタリト云テ、尙レタル物ガカタマリテアルニハアラズ。只尙レタルマデナレドモ、害ヲナスコト甚大ヒナリ。ソノ如ク無明ノ当体自性ナケレドモ、知ラ子バ永ク空ノ生歎ニ流転スルナリ。茲ニ於テ宿植徳本ノ善縁ニ依リテ自心ヲ悟ルモ空悟ナリ。如レ是一々明了スレバ、無明ト云モ即無ノ無明ニシテ、無明ト名ヅクベキモノノナシ。ユヘニ今無明ヲ尽スト云ニハアラズ。無明ノ当体ヨリ自性ナシト究明スレバ、過去久遠劫ヨリ尽キテアルナリ。或ヒハ無明ヲ尽ストオボヘテ、精出ス人ヲ明ラカナ眼ヨリ見レバ、空力ヲ囑シテ空尽スルナリ。正見ノ人ハ無明モナケレバ明モナク。尽スト云コトナケレバ、尽サヌト云コトモナシ。老タト云コトモナク、歎スルトモナキナリ。爰デ人毎ニ此色身ニハ、少ノ老ノ死ノ生ノト云コトアリトモ、此心ハ不生不滅デ生歎モ老少モ

ナイトオボユルナリ。ソレデハ吾シラズ心身隔別ニ見ル。先尼外道ノ見トナルナリ。夫レ身ハ心ノ形チナリ。シカラザレバ生歿輪廻ハ自心ノ作業次第ニ、形ヲ現ズルト云コトハ云ヘヌナリ。然レバ此色身直ニ生歿ナク老少ナシト云コトハ、汝ガ生歿老少ノ分別サヘナケレバ、独リ離ル、ナリ。是ノ道理慥ニ了ズレバ埒チ明ケドモ、ソレデハ分別セヌ様ニ教示ニ似テ、サツパリセヌホドニ、一一微細ニ詮議シテキカスベシ。若母胎ノ内ヨリ生ジ出ルト云ハバ、母ノ胎内ヘハ何レヨリ入リタルモノゾ。父母交合ノ時入ツタリトイハ、ソレハ何レノ方ヨリ入リタルモノゾ。若シ前ニ歿シタル者ノ魂ヒガ母胎ヘ交合ノ時入ツタリト云ハバ、其前ニ死シタル魂ヒ本ハ何レヨリ起リタルト前キヲ尋子タル時、根本ノ出処ハアルマジキナリ。若シ根本ノ出処アリト云ハバ、今日ノ色身ハ前生ノ色身ヲ以テ、母胎ニ入リタルモノカ。但シ新シキ四大ヲ母胎エ持テ入リタルモノカ。若シ魂ヒ胎内エ宿ル時、四大ヲ持ツテ入リテ、人トナリ畜生トナリ、種々ノ形チニスルナラバ、世間ノ地水火風ガ次第々々ニ滅テ、後ニハ情アルモノバカリ成テ、地水火風ハ尽ヌベシ。ソレハ歿ニ次第ニ元トヘ返ヘスニ依テ、滅ラヌト云ハ、歿骸ヲ焼キ尽シテ見レバ灰モ残ラヌ。然レバ返スト云コトモ云ヘヌナリ。四大元ト此身ヲ成ジ歿ニ及ンデ一一ニ返シ了ルト云ハ、此身ヲ実ニ有ルモノト思フ人ノ為メニ云タルコトナリ。本不生ニシテ借ラヌニ依テ、不滅ニシテ返スト云コトモナシ。徒ラニ生歿老少ヲ見ルハ、病眼ノ空華ヲ見イダス如クナリ。生レテ皮肉円満ナル時ニ、年モ長ケ貌モ悴ケタル時ノコトヲ分別スルニヨリテ若イト思ヒ、年タケタル者ハ皮肉円満ノ昔シヲ思ヒダスニヨリテ、今ハ老ヒタリト想フ。シカレバ老若共ニ對待ノ分別ノミナリ。皮肉円満ノ時ニ老イタルト云相手ヲ持タズンバ何ト云タルモノゾ。只円満ナ時ハ円満ノ時ナリ。皮肉悴タル時ハ只悴タル時ニテ、暫クソレニ似タルノミナリ。生老病歿モミナ如シ是ナリ。爰ニ病ヒト云ニ就テ、古ヘヨリ愚ナル者、悟レハ病ハ脱ルヤナド、思フ。大ナル錯リナリ。色身ニモ種々ノ相アリテ、病者モアリ無病ナル者モアリ、シカレドモ病ト無病ト共ニタゞ思想ナリ。ソノ思想ヲ究メテミヨナンデモナキコトナリ。只病トキハ藥ヲ用ヒ、寒ケレバ衣ヲ重子飢餐困眠敬上憐下、ソレタゞアリノマ、ナリ。去ニ依テ十二因縁生老病歿ノウヘガ生老病歿ナク、無キガユヘニ尽スト云コトモ尽クサヌト云コトモナシ。只汝ガ分別デ有ルモノトミレバ有ルモノナリ。無キモノトミレバ無キモノナリ。ドチラヘナリトモ分別次第ナリ。分別ノ影ゲアル内チハ生滅有無ノ間ニサマヨフ。其分別ガ生歿流転ノ根本ナリ。諸人直截根源ナルベシ。無苦集滅道。無智亦無得。苦集滅道トハ、四聖諦ト名ク。声聞所修ノ觀ナリ。智得ハ菩薩六度ノ因果ニカケテ見ル事ナレドモ、今爰ニイラヌコトナリ。唯一切ノ名目ハ、分別趣向ノ名ト知ルベシ。小刀細工ノ様ニ知テモ、何ニモナラヌコト

ナリ。苦ハ一切有為ノ法ミナ苦ナリト觀ジ、集ハ一切分別デ種々ノ事ヲ招キアツムル故ニ生死スルゾト觀ジ、滅ハ一切、結集ヲ滅シ尽シテ、道ノ涅槃ヲ証セントスルナリ。是ハ皆刻ミ佛法デ埒ノ明ヌコト今般多クノ禪者ガ随<sup>テ</sup>分<sup>ニ</sup>直指ノ道ヲ明ラムル様ナレドモ、皆コノ四諦ノ修行ニ落テイルナリ。ユヘニ前章ニ説クトコロヲ能ク參究セバ、直ニ根源ヲ尽シテ本ヨリ不生不滅ナリ。何ノ苦集滅道ト云コトカアルベキ、爰ヲ親シク落著シテミレバ、六度ヲ修シ一切ヲ明ムルト云智モナク、智ナキユヘニ果ヲ得ルト云コトモナク、又智モ得モナシト云フ分別モナキナリ。茲ニ於テ古今学佛法ノ者多錯ルコトアリ。イカニモ理ハ心經ノ如クナレドモ、事ト云モノハ漸々ニ除カ子バナナラヌ。去ニ依テ楞嚴經ノ中ニモ、理ハ頓ニ悟リ事ハ漸クニ除クトアルト云ナリ。ソレハ事ト理ト云モノ二ツニ見ルカラノ倣見ナリ。ヨク知テ見ヨ理ト見ルモ己レガ分別、事ト見ルモ己レガ分別ナリ。ソノ分別ヲ離レタラバ事理ノ方ヨリ事理トハ云ハヌナリ。楞嚴經ノ「理則頓悟<sup>ニ</sup>乘<sup>レ</sup>悟<sup>ニ</sup>並銷<sup>ス</sup>事則非<sup>ニ</sup>頓除<sup>ニ</sup>漸<sup>ニ</sup>盡<sup>ニ</sup>」ト云フ。此レハ人根ノ差別ヲ分ケテ説キ玉フコトナリ。上根ノ人ハ、直下ニ此心經ノゴトク點頭シタレバ、漸修ヲ用ヒズンテ自性ヲ悟リ、其悟リタル正眼ニハ何ニモ目ニ掛ルモノナシ。煩惱ノ菩提ノ仏ノ衆生ノト云コトモナク、アラユル諸法一時ニ併セ銷殞スルナリ。然ルニソレデモ地獄極樂ト云コトモアリ。仏モアリ衆生モアリ、腹モ立チ欲モ起リ、種々ノ事ガアルニ依テト跣<sup>アトスガリ</sup>跟スル者ニハ、イカニモ其人ハ頓ニ除クコトハナラヌ、漸々次第ニ尽シテ行クト云タル説相ナリ。総ジテ眼コノ著ケ処ガ違フテハ、此事頓ニ成就スルコトハナラヌナリ。是ニ就テ又瓢<sup>ヒヤウケン</sup>輕坊共ガ、仏モナク衆生モナク、ナニモナイニ依テ勤行モイラズ坐禪モイラヌト打破ル者アリ。夫ハ得手勝手ノ悟リナリ。坐禪誦經礼拝等モイラヌナラバ、金銀財宝ヲヨビ寒暖人事モイラズ。況ンヤ憎ムノ愛スルノト云コトモナキハヅナリ。シカルニ此レハヨイ夫レハ用ニタ、ヌト云フモノハ、途方モナキ邪見ナリ。世間ノ上ヘスラ子ハ父母ノ前ニ礼ヲ厚フシ、上輩ノ人ニハ言語マテ疎カニせず。況ンヤ其人ノ言ヒ付タコト負カヌハ人ノ常ナリ。其如ク仏ノ一一法儀ヲ立テ玉フニ、用ニ立ツノ立ヌノト云様ナ蔞齒ナルコトハナシ。仏出世ヨリ以来、此法世ニ展轉シテ、次第々々ニ信証シテ安心スルユヘニ、其恩ヲ知テ礼拝供養ヲナシ、或ハ坐禪誦經等、時ニ応シ節ニ任セテ作<sup>オス</sup>ヲ無作ノ妙用ト云ナリ。然ルニ坐禪ハ用ニタ、ヌト云モノハ太<sup>オ</sup>非ナリ。此事埒明ヌ者ハ、老僧ガ云<sup>ッ</sup>通りニ坐看究理セヨ。夫レ定坐ノ時ニ當テ、種々無量ニ競ヒ出来ル。善惡ノ倣想ヲ取りヤワズ。只此一念何レヨリ起ツテ何レニ滅スルゾト急切ニ返照シテ見ヨ。驀然トシテ自心ノ起滅ナキコトヲ証スベシ。然ルトキハ得悟ノ道人。兀々地非思量ノ風流モ自<sup>オ</sup>ラ通達スベシ。若シ坐禪ガイラヌモノナラバ、行クコトモ臥スコトモイラヌモノナルカ、ソレ行住坐臥ハ四威儀ト云テ日用ノ常儀



ナルニ、此ヲ取り彼ヲ捨ルト云コトハアルマジキナリ。時ニ臨ンテ坐禪ヲ呵責スレドモ、ソレハ一向ニ此事ハ坐禪デナケレバ、埒明ヌモノトオボヘ、徒ラ二十年二十年モ妄想窟裡ニ死坐シ、魂不散ノ灰漢トナル者ヲ驚回スル一時ノ風劑ナリ。自余ノ誦經礼拝等一切仏門ノ諸作業トモニ随分実義ニスル筈ナリ。総ジテ世間ノ事デモ、法門ノ事デモ、皆空行ト知テ道理ヲタガヘス我儘ニセヌハ自我ヲ立セヌ、真ノ行持ト云フモノナリ。法門ノ作業ハ用ニ立ヌト云テ、捨リニ捨テバ、世間ノ事モ其様ニアルベキナレドモ、夫レハイカニモ身ヲ碎ヒテモ、我が勝手ノ好キ様ニ、親切ニスルハ貪欲仏法ト云ナリ。仏法ト世間ト自ラ別々ニナルゾカシ。実々ニ究明シテ、自ラ欺キ去ルコト勿レ。

以レ無<sub>レ</sub>所得<sub>レ</sub>故菩提薩埵。依<sub>ル</sub>般若波羅密多<sub>ニ</sub>故心無<sub>レ</sub>罣礙。無<sub>レ</sub>罣礙<sub>ニ</sub>故無<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>恐怖。自心ノ無性ナルコトヲ体究シテ、世出世間一切事上ニ取捨ノ分別ナケレバ、何ヲ煩惱ト嫌フベキナク、何ヲ菩提ト得ベキナシ。如<sub>レ</sub>是一切無所得ナルコトヲ了ズルヲ、真ノ菩提薩埵ト云ヒ、又般若波羅密多ニ依ルト云フ。此時心ニ罣礙ルコトナキナリ。心ニ罣礙ナケレバ生歿輪回ノ怖レモナシ。怖レナキト云テ腕デ振ルコトニハアラス。六道四生三世十方無尽法界、皆吾ガ掌中ニアルコトナリ。手ヲ心頭ニ著テ如何ト看ヨ。

遠<sub>ニ</sub>離<sub>レ</sub>一切顛倒夢想<sub>ヲ</sub>究<sub>ニ</sub>竟<sub>ス</sub>涅槃<sub>ニ</sub>。一切ト云フ語ヲ看過スヘカラズ。世間ノ種々人事ハ云ニ及バズ、仏トミルモ顛倒ナリ。衆生トミルモ顛倒ナリ。色ヲ色トシ声ヲ声トスルモ顛倒ナリ。顛倒トミルモ顛倒ナリ。シカラバ見ヌガ好ヒト云モ顛倒ナリ。何トナリトモ意ニ慮リ分別ニ測ルコトハミナコレ顛倒ナリ。如<sub>レ</sub>是信得セバ直ニ分別ノ相手ヲ離ナレテ、無所得ナルベキナリ。夢想ト云モ顛倒ト同ジ意ナリ。計我著相等ノ諸見ミナ夢中ノ思想ナリ。如来モ此<sub>ハ</sub>仏果ヲ得ント思フ所得ノ念デ、往來八千返シ玉フテ、無所得ノ時初メテ阿耨菩提ヲ得タリト、金剛經ニ説キ玉フ。一切有所得ノ顛倒分別ヲ離レタラバ、初メテ夢メガ覚ムル。此時ヲ涅槃ヲ究竟シタルト云ナリ。究竟トハ究尽ナリ。涅槃ノ義、前ニ委曲ニ説リ。

三世諸仏依<sub>ル</sub>般若波羅密多<sub>ニ</sub>故。得<sub>ニ</sub>阿耨多羅三藐三菩提<sub>ヲ</sub>。而今学般若ノ菩薩、コレニ依テ大涅槃ヲ究竟スルノミニアラス。十方三世ノ諸仏モ、コノ般若無所得ノ仏眼ヲ開テ、無上菩提ヲ得玉ヘリ。阿耨多羅此ニ無上ト云ヒ、三藐三菩提ヲ正等覺ト云ナリ。無上トハ見性ヨリ上ニ過ルモノナキヲ云フ。正等トハマサニヒトシ、ト読メリ。何ニ等シキト云ニ、山ヲ見レバ山トヒトシク、川ヲ見レバ川トヒシク、頭頭物々ニ等シキ、コレヲ正等トモ平等トモ云ナリ。覺トハ本覺始覺ノ説アレドモ、畢竟汝ガ自心迷ハザルヲ正覺トハ云ナリ。然ルニ此<sub>ハ</sub>涅槃ハ一大事ヲ明了シタ人ノミ究竟スルト云者アリ。尤ニハアラス。一衆

生トシテ涅槃ヲ究竟セザル者ナシ。迷ヒモ涅槃ノ迷ヒ、悟リモ涅槃ノ悟リニシテ、迷テ涅槃ヲ出デズ。悟テ涅槃ニ入ラザルナリ。楞伽經ノ中ニ涅槃ニ入ルノ仏ナク、成仏シタル仏ナシト云コトアルモ此事ナリ。迷タト云ハ、己レガ家ニ居ナガラ忘レテ余所ノ家ニ居ルト思フ様ナルモノナリ。時ニ吾ガ家ト知タト云テモ、今初メテ己レガ家ニ入りハセヌ。元トヨリノ本宅ナリ。ユヘニ本覚トモ云ナリ。然ラバ我レハ元ヨリ涅槃不生不滅ノ処ニ居ルゾト取り著ク。ハヤ己レガ家ヲバ余所ニナシタルナリ。審細ニ参究スベシ。

故知般若波羅蜜多是大神咒。是大明咒。是无上咒。是无等等咒。能除一切苦。真实不虚。咒又ハ陀羅尼トモ云。唐ニハ

総持ト翻ズ。一切時処縁ニ応ズルマ、総ヘテ通ジテ、余ルコトナク欠ルコトナキ自心ノ本徳ヲサシテ、総持トハ云ナリ。此ノ自心般若ハ、神通不可思議ニシテ、衆魔モ僂リヲ得ヌ大神咒ナリ。光明遍照十方世界ナル大明咒ナリ。是ヨリ上ノ無キ無上咒ナリ。上ヘナキニ依テ、又下ト云コトモナク、何ニタクラブベキモノ無シテ、シカモ何ニモヒトシキ、是ヲ無等等咒ト云フ。畢竟生仏一円ノ自心ヲ称美ノ異名ナリ。従上ノ所説ヲ信得及シ体得徹セバ、一切世間ノ苦ハ云ニ及バズ、仏縛法縛ヲモ脱落スルコト、真実ニシテ虚妄ナシ。如レ是如来叮嚀ノ告誡信スベシ行ズベシ。是マデヲ頌説般若ト云ヒ、次ノ咒ヲ蜜説般若ト云ヘドモ、強テ頌蜜ヲ論ズルハ可レ惜失ニ一雙眼。

故説般若波羅蜜多咒。即説咒曰。羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提娑婆訶。是无等等ノ活句ナリ。直下ニ薦取セバ汝ガ

本参ノ話頭ナリ。「可レ謂世尊有ニ密語。迦葉不ニ覆蔵。」ト此ノ咒有翻無翻ノ兩義アリ。古来注家ノ訳解モアレドモ、彼ノ此ノ理窟ヲ著レバ、死句トナツテ、汝ガ出氣ノ分ナシ。痛哉劍去刻レ舟者多矣。

般若心經止諦錢畢

寛延辛未、春現興聖直指禪師退藏峯ニ登リ、始祖老和尚ノ塔ヲ掃ヒ憩止スルコト僅ニ兩月。一日浪華ノ住人五十川氏正敬此鈔ヲ携ヘ来リ師ニ白シテ言、先考一路居士臨末吾ニ囑シテ曰、老夫曾テ螺蛤大師ノ室ニ上謁シテ、垂誠ノ席末ニ列レリ。或時侍司ニ詣シテ問フ。老古仏垂誨ノ殘篇片牘吾輩ノ警策タルベキモノナシヤト。侍史即此鈔ヲ授テ曰、是老上ノ口澤ナリ。看読シ了リテ壁角ニ抛下スルコト勿レト。是ニ依テ頂受拜謁幾多ノ春秋ヲ歴タリ。而今命終ノ期ニ臨ミ、透脱ノ全機ニ乏シトイヘド

モ、生炊岸頭。坦然一路、コレ此、鈔ノ助発ニ非ズト云コトナシ。百年後汝、梓ニ寿シテ、有志ニ施シ児孫ニ流ヘハ、老夫ガ追薦コレヨリ大ナルコトナシト。今慈父ノ遺訓骨ニ銘ジテ黙止シ匣シ。師願ハ聽許シ玉ヘ予之ヲ謀ント。師即焚香展閱シテ曰、コレ先師ノ手ニ出ズトイヘドモ、往昔四衆ノ懇請ニヨリテ、講説シケル老婆禪ノ法益、侍史等聞ニ随ヒ私ニ録セリ。有時先師ノ榻前ニ呈スルニ即展覽シ微笑シテ曰。老僧一時ノ演説ヲ書キ記スヲ見レバ、剩ルコトモアリ。足ヌコトモアリ。益ニモ立ヌコトナレドモ、糠ヲモ舐レバ折節粟粒ニモアタルト云ヘバ、千ニ一モ自心ヲ肯フ優リニナルベキカ。唯小兒ノ啼ヲ止ルノミナリト。誠是止啼ノ黄葉ニテ醜ヲ怱ル、養子ノ縁ナリ。故ニ旧参上士ノ見ルニ足ズトイヘドモ。発心初地ノ祖鞭トモナルベシ。倘先師ニ此語無キコトヲ知テ、蕙爾ニ自家ノ心経ヲ翻転セバ、畜此鈔ノ止啼ナルノミニ非ズ、一大藏経一千七百ノ公案尽是対機ノ所説ニシテ止啼ノ黄葉ナリ。如是真正ノ眼目アラバ、一見シテ醬瓶ヲ覆ヒ、丙丁子ニ附スルモ、先師光明蔵裡會ヲ開クコトアラン。徒拍會ニ誑児ノ黄葉ナリト云ハ、痛哉正法輪ヲ謗スルコトヲ。汝先考ノ遺囑ヲ怱レズ、寿梓ヲ謀ルコト切ナリ。安ソゾ其志ヲ奪ンヤト云テ、看訂一過シ即心経止啼錢ト題シテ興フ。居士唯唯シテ退キ、因ニ侍司ニ来リテ曰、適来老和尚示諭ノ顛末ヲ書尾ニ跋シテ、此鈔ヲ不朽ニ流布センコトヲ冀フト。是故ニ某甲侍側ニ随聞セシ一時ノ對話ヲ記シテ、其需ヲ塞グト云。

不肖徒某甲焚香在于退藏峯侍史寮書

粵敬彫刻 老螺蛤禪師心経止啼錢一冊鎮藏于撰州退藏峯之空果堂無限勝因以追修先考坦然一路居士之冥福伏願見聞悉植般若種繇素均開仏知見

寛延四歳舎辛未八月穀旦

浪華長堀住 五十川正敬 謹誌

## 註

(2) 明治本「刻舟者多矣」の語に続いて「神呪ノ梵文曰。行行

義。勝行義。勝行和合義。究竟成就円満義。一字千理ヲ含ト

云也。」の文がある。書写本、寛延本ともに、この文章がな

いとところから、明治本の再刻時に、校訂出版者・大溪雪巖和尚が底本のなかに書き込みされていた註記を本文に加えたものと思考される。

(2) 卷末の跋文は書写本、寛延本ともに存在するが、明治本に

写本・退藏螺蛤老人般若心経止啼錢(青龍)

写本・退蔵螺蛤老人般若心經止錢錢（青龍）

は一言半句も記載されていないので、この点からも、曹洞宗全書所収の『心經止諦錢』は必ずしも善本とはいえないものである。